



「“風を起こす”って、あの言葉…本気なんですか？」

会議の後、新入社員が遠慮がちに聞いた。

部長は一瞬だけ驚いたような顔をして、それから微笑んだ。

「もちろん本気よ。それは、私たちの姿勢そのもの」

「でも、2035年って、そんなに先のことじゃないですよ？」

「そう。だから“描ける未来”でもあるの。エネルギーのニーズが変わり、
使う人が作り手にもなる時代。

AIによる技術革新も進むし、働き方も大きく変わっていくわ」

「それで先に“こうありたい”って姿を描くんですね」

「ええ。予測じゃなく、意思で未来を決める。それが私たちの“航路の拓き方”なの。
だからこそ、今という一点に意味が出てくる」

「“常識の岸辺を離れて、九州から世界へ”って、そういう意味だったんですね」

「そう。“変わる社会にどう応えるか”じゃなく、“どう導くか”を語りたいのよ」

SECTION 1 TO BE | 九電グループが目指すもの